

全国結核予防婦人会だより

発行●公益社団法人全国結核予防婦人団体連絡協議会
〒101-0061 東京都千代田区三崎町1-3-12 TEL 03-3292-9288

2015.7
No.114



2015年度
複十字シール図案
デザイン:安野光雅画伯

健康の輪



編集●全国結核予防婦人団体連絡協議会事務局(結核予防会普及広報課内) 題字●初代会長 廣瀬勝代

第19回結核予防関係婦人団体中央講習会開催



開講式にてお言葉を述べられる秋篠宮妃殿下

平成27年2月9日・10日の2日間、東京都千代田区のKKRホテル東京において秋篠宮妃殿下の御臨席を仰ぎ、第19回結核予防関係婦人団体中央講習会が開催されました。

全国各地より111名が参加し、呼吸器疾患、生活習慣病、国際協力などの各種講演や班別討議が行われ充実した内容の2日間となりました。(秋篠宮妃殿下のお言葉は本誌2ページに記載)

第66回結核予防全国大会開催

平成27年2月27日福岡県ホテルオークラ福岡において、秋篠宮妃殿下の御臨席を仰ぎ、第66回結核予防全国大会が開催されました。

また、同大会で第18回秩父宮妃記念結核予防功労表彰式が行われ、本協議会からも事業功労賞(団体)に福岡県結核予防婦人会が受賞し、秋篠宮妃殿下より表彰状が授与されました。

(秋篠宮妃殿下のお言葉は本誌2ページに記載)



大会式典にてお言葉を述べられる秋篠宮妃殿下

第十九回結核予防関係婦人団体中央講習会 おことば

平成二十七年二月九日(月)

本日、「第十九回結核予防関係婦人団体中央講習会」の開講式にあたり、皆さまにお会いできましたことを、大変うれしく思います。

毎年、アジア・アフリカ地域の発展途上国を中心に、エイズ、結核、マラリアの三大感染症によって、三〇〇万以上もの命が失われ、人々の健康を脅かしています。そのため、感染症の拡大を防ぐことは、世界の人々の健康を保つために極めて重要な課題の一つとされています。中でも結核は、世界で一年間に約九百万人が発病し、その半数以上はアジア地域の患者です。また、アフリカにおいては、結核とエイズの二重感染が深刻な問題となっています。

こうした厳しい現状に対して、世界の国々が協力して結核対策に取り組み、様々な努力が重ねられてきましたことは、大変心強いことでもあります。

日本は、昨年一年間に約二万人の新たな結核患者が発生し、依然として中蔓延国に位置しています。特に、高齢者、糖尿病などの合併症のある患者の割合の増加、多剤耐性結核の患者への対応などの課題があり、結核対策をゆるみなく進めていく必要があります。

このような中、多剤耐性結核に効果のある治療薬が、結核の新薬としては約四十年ぶりに日本で開発されました。今後も、多くの研究者の熱意と創意工夫による研究が成果を上げ、これからの結核治療に役立つことを願っております。

結核予防婦人会は長年にわたり、結核予防への関心を高めるために、地域の人々と行政の架け橋となつて、大きな役割を果たしてこられました。この意義深い活動に携わられている皆様お一人お一人に深く敬意を表します。

婦人会では昨年も、カンボジア結核対策スタディーツアーが実施されました。ツアーでは、カンボジア結核予防会が健康教育活動をおこなっている工場や、結核対策の拠点となっている病院とヘルス・センターをいくつも見学し、カンボジアの結核予防婦人会の幹部、カンボジア結核予防会の医師や職員と交流を深めました。また、複十字シル募金の一部は、カンボジア結核予防会に寄付されており、工場の従業員が結核検査を受けたり、ヘルス・ボランティアが村落を巡回して結核患者を見つけ、病院などで受診することを促す活動を進めたりするために役立てられていると伺いました。皆さまのご活動が、このように国を超えて世界の結核対策につながっていることは、誠に喜ばしいことでもあります。

本日と明日の二日間にわたり講習会が開催されます。結核を中心とした疾病とその予防について講演や班別討議が行われます中で、皆様の今までの貴重な経験や情報を交換しながら、今後の予防活動の更なる充実に向けて話し合う良い機会となりますことを期待しております。

本講習会に参加される皆さまが、健康を大切にされながら、今後もそれぞれの地域の状況に合った結核予防活動を進められますようお願い、開講式に寄せる言葉といたします。

第六十六回結核予防全国大会 おことば

平成二十七年二月二十七日(金)

「第六十六回結核予防全国大会」がここ福岡県において開催され、全国よりお集まりの皆さまにお会いできましたことを、大変うれしく思います。

はじめに、本日、「第十八回秩父宮妃記念結核予防功労賞」を受けられる皆さまに、心よりお祝い申し上げます。長年にわたり、結核の予防や対策に取り組んでこられましたご努力に対し、深く敬意を表します。

日本では、結核罹患率は毎年低下していますが、未だに年間約二万人が新たに結核を発症しています。また、結核患者の高齢化、若い患者層における外国人の割合の増加や、大都市での罹患率が高いことなど、多様な課題があります。患者発見の遅れによる集団感染事例も発生しております。このような状況の中、日本で約四十年ぶりに結核の新しい治療薬が開発されました。こうした新たな成果も活かしながら、関係者が力を合わせて、結核対策を引き続き着実に進めていくことは、大切なことでありましょう。

昨日の研鑽集会では、「社会要因の多様化と結核」について、様々な立場からのお話を伺いました。結核罹患率を更に低下させていくために、私たちの身近にある社会的な要因について、改めて考える機会になったのではないかと思います。

一方、世界では、年間およそ九百万人が新たに結核を発症し、約五百万人が命を落としています。その多くはアジア・アフリカ諸国に集中しており、これらの国々に対して、患者の発見や治療のための人材育成、結核を含めた保健医療システムの構築など、日本の経験を活かした協力が求められています。

結核予防会は、国の内外における結核予防など多様な取り組みに加え、東日本大震災の被災者支援に関しても、福島県外への避難者に対する健康支援活動を継続しています。また、今後の大規模な災害に備えた検討も、進めていると聞いております。災害時にも、結核予防会が被災者の健康を守るためによりよい貢献ができれば幸いですよう、願っております。

本大会に参加されている皆さまが、日頃より結核予防活動に力を尽くされていることに深く感謝いたしますとともに、皆さまが健康に留意されながら、これからも人々の健康を支えるためにご活躍くださいますことを希望し、式典に寄せる言葉といたします。

写真で
振り返る



第19回 結核予防関係婦人団体中央講習会

(2月9日・10日KKRホテル東京)



全国各地の婦人会から111名受講されました



中央内科クリニック 松村 弘康院長には喫煙および受動喫煙の有害性について多くの実例を用いてわかりやすく講演いただきました



懇親会ではシャンソン歌手 高木 栞太様に素敵な歌声を披露していただきました



班別討議オリエンテーション
慶應義塾大学商学部 吉川 肇子 教授



ある問題に対して自分の意見にあったカードを提示している様子



受講生と問題点や解決策について語る吉川教授



各班からの結果発表



終講式では受講生代表として一般社団法人大阪エイフボランティアネットワーク 理事 掛井 恵子様から謝辞をいただきました

中央講習会スケジュール

テーマ:自分の健康は自分で作る ～国民運動への展開～

● 第1日 2月9日(月) ●

- 13:10 開講式 13:10～13:40
 主催者挨拶 結核予防婦人会 会長
 主催者挨拶 結核予防会 理事長
 総裁おことば 秋篠宮妃殿下
 来賓挨拶 厚生労働省 健康局長
 健康の歌斉唱
- 13:50 写真撮影 13:50～14:05
- 14:15 講演①(50分) 14:15～15:05
 『結核という病気について～患者さんから学んだこと～』
 公益財団法人結核予防会複十字病院 診療主幹 佐々木 結花
- 15:15 講演②(30分) 15:15～15:45
 『ワクチンで子どもを守ろう - BCG接種 -』
 公益財団法人結核予防会結核研究所 名誉所長 森 亨
- 15:55 講演③(45分) 15:55～16:40
 肺の生活習慣病
 『知っていますか? COPD(たばこ病)』
 公益財団法人結核予防会 理事長 工藤 翔二
- 16:40 講演④(45分) 16:40～17:25
 『喫煙および受動喫煙の有害性～理解されないのはなぜか～』
 中央内科クリニック 院長 村松 弘康

● 第2日 2月10日(火) ●

- 8:30 講演⑤(30分) 8:30～9:00
 『結核予防婦人会活動と複十字シール募金運動の意義』
 公益財団法人結核予防会 事業部顧問
 公益社団法人全国結核予防婦人団体連絡協議会
 理事・事務局長 山下 武子
- 9:10 班別討議⑥(140分) 9:10～11:30
 『考える・まとめる - 計画を立てる - 』
 『クロスロードで考える婦人会活動の活性化』
 慶應義塾大学商学部 教授 博士(文学) 吉川 肇子
 全体発表会・総評
- 11:40 婦人会の皆様へ(20分) 11:40～12:00
- 12:00 終講式 12:00～12:20
 主催者挨拶 結核予防婦人会 副会長
 主催者挨拶 結核予防会 専務理事
 修了証・バッジ授与
 受講生代表挨拶
 蛍の光斉唱

第18回秩父宮妃記念結核予防事業功労賞(団体)受賞に寄せて

福岡県結核予防婦人会
会長 木下 幸子



太宰府の梅の花も満開を迎え、春の訪れを感じる2月26日、27日に第66回結核予防全国大会が総裁秋篠宮妃殿下の御臨席を賜り、全国各地から結核予防活動に取り組んでいるたくさんの仲間の皆さんをお迎えし、県内からも400名を超える会員の参加を得て盛大に福岡県で開催されました。

私たち福岡県結核予防婦人は、昭和45年6月に全国結核予防婦人団体連絡協議会に加入し、46年間の永きにわたり結核予防活動に積極的に取り組んでまいりました。

このたび、これまでの活動が評価され、第18回秩父宮妃記念結核予防事業功労賞(団体)受賞として荣誉に浴しましたことは、会員一同大変光栄であり感謝申し上げます。

今回の全国大会に参加いたしまして、日本人の罹患率は年々減少してきていますが、研鑽集会の矢野栄二教授をはじめ諸先生方の講演やご意見を拝聴いたしまして、社会情勢の変化に伴い、結核という病気の根絶がいかに困難であるかを考えさせられました。

グローバル化していく社会の中で、日本だけで予防活動を行っていたとしても発展途上国の罹患率は依然として高く世界全体として憂慮すべき状況にあることを認識いたしました。特に、発展途上国への支援の継続など世界中から結核を根絶する活動が大切です。

これからの活動は、世界に目を向けて、身近な活動を見直し、全国の

会員の皆さんと手を取り合っけて結核予防活動の推進に努めてまいります。

第66回結核予防全国大会を終えて

福岡県結核予防婦人会
副会長 池田 穂波

第66回結核予防全国大会が秋篠宮妃殿下をお迎えして、約60年ぶり福岡で盛会に開催されました。

60年前と言えば、結核は大流行し不治の病と言われた時代。当時、小学生だった私も学校や家族の間で結核の話が出ていたことをほんやりと思い出します。長い年月の間に我が国は、めまぐるしい経済発展や医学の進歩などで患者数も減り、結核という言葉も死語になりつつあると思っていましたが、近年高齢者や外国籍の人たちの発症が増えていることは、非常に残念です。

私たちの結核予防の取組は、「今年も複十字シールお願いします。」と、複十字シールへの協力をお願いに回りますが、一年経つのが早いと感じ、年に一度お伺いして募金していただく方々に来年もお願いしますと心の中で手を合わせながら地道な活動を展開しています。

そんな中、全国結核予防婦人団体連絡協議会懇談会では、秋篠宮妃殿下へ一人ずつそれぞれの地域活動をお話しさせていただき、その上励ましのお言葉をいただき、身に余る光栄でございました。

アトラクションでは、世界一の精華女子高等学校の演奏、そして特別講演では、長谷川法世氏の「博多の祭り」と町人文化」を博多町人文化連盟の踊りを交えながらの講演にとっても和やかな大会でした。

総裁が御臨席される大会を機に、

結核に対する理解が高まると共に、複十字シール運動に対する理解がより一層深まるよう努力していこうという勇気を与えていただきました。

今度、福岡県で開催される時には、結核がこの地球上からなくなっていることを願いつつ、今大会に参加させていただいたことに感謝申し上げます。



研鑽集会(紙芝居「結核裁判」)



アトラクション
「精華女子高等学校吹奏楽部の演奏」



大会式典



特別講演「博多の祭り」と町人文化」

第66回結核予防全国大会 — 研鑽集会での紙芝居 —

結核予防会総裁 秋篠宮紀子

今年の2月26日と27日の2日間にわたり、「第66回結核予防全国大会」が福岡市で開催され、結核の予防や治療にかかわる様々な領域の方々为全国から集まり、講演やシンポジウム、発表がおこなわれました。

研鑽集会では、テーマ「社会要因の多様化と結核」のもと、公衆衛生学が専門の矢野栄二帝京大学大学院教授の基調講演があり、健康に関わる問題の解決に向けて、社会的な絆と連帯が大事であり、社会的弱者に対するアプローチを再認識すると共に、ヘルス・プロモーション、地域のネットワークづくりの重要性を感じました。続くシンポジウム「社会要因から考える結核対策」では、福岡県で結核の検査・診断や治療に携わる病院の医師、保健所長、結核予防婦人会の九州ブロック代表という立場からの報告・発表と討論がありました。現在の日本における結核の様々な社会要因について改めて考えるきっかけになったのではないのでしょうか。

婦人会からは、九州ブロックを代表して、健康を守る佐賀県婦人の会の三苦会長より、第46回九州地区結核予防婦人団体幹部講習会の報告がありました。カンボジアへのスタディーツアーの報告、BCG接種・その他の予防接種・佐賀県の結核の現状についての講義、さらに地域での婦人会活動をテーマとしたシンポジウムという充実した講習会の内容が紹介されました。全国大会へ参加された方々に、婦人会の活動を知っていただくよい機会になったことと思います。

紙芝居『結核裁判』

また、研鑽集会の中の催しの一つとして、65年前に制作された紙芝居『結核裁判』とその後日談が、結核予防全国大会では初めて上演されました。



ツベルクリン検査を受ける鬼たちの様子
(紙芝居より)

この紙芝居は、1950(昭和25)年に制作されたものです。結核予防会でも、地方で巡回検診をおこなう際に、事前の普及広報活動でこの紙芝居を上演したことがあります。結核予防会の島尾顧問によると、検診を担当した医師たちが配役を分担して台詞を読み上げていたそうです。

紙芝居のお話は、結核菌が閻魔大王の裁判を受けるというあらすじで、結核が空気感染する感染症であること、ツベルクリン検査とBCG接種の目的、X線検診による早期発見の重要性、当時の治療法の人工気胸療法などが、分かりやすく伝わるようになっています。

研鑽集会では、紙芝居の上演後に、結核菌、閻魔大王、紙芝居の登場人物「青井細吉」の孫「青井太子」が舞台に登場し、高齢者の結核、HIV/エイズの二重感染の問題など、結核に関する近年の話題を紹介しました。福岡県結核予防婦人会の木下会長らの熱演に、お集ま

りの皆さまから盛んな拍手が送られていました。

結核の知識と正確な情報を わかりやすく伝える

健康な生活を送るためには、結核をはじめとする感染症や、糖尿病、COPD(慢性閉塞性肺疾患)などの生活習慣病、その他の疾病について、正しい知識をもち、予防を心がけ、病気にかかったときには早めに対応することが大切です。

健康や病気に関する知識や正確な情報を得る手段は、病院や診療所で医師や看護師から直接お話を聞く他にも、病院や薬局などに置いてあるパンフレット、新聞や雑誌の記事、テレビやラジオの番組、さらにインターネットなど様々なものがあります。

紙芝居や寸劇などは、子どもたちにもわかりやすく、親しみやすい形で情報を伝えることができるのではないのでしょうか。病気について考えるのは気が進まないこともあると思いますが、お芝居ならば見てみようとする人も増えるかもしれません。また、ご高齢の方には、紙芝居が懐かしく感じられることでしょう。結核予防会が出版した結核についての教育用まんが『沖田君のタイムスリップ』を一部用いた紙芝居を制作し、研修で利用している婦人会の支部もあると伺いました。

結核をはじめとする疾病や健康について相手に合わせて分かりやすく伝える方法をこれからも婦人会の皆さまとご一緒に考え、よりよい活動を進めていくことができればと考えております。

第66回結核予防全国大会決議

平成26年5月に、結核予防会は創立75周年を迎えました。この間、官民を挙げて結核対策が進められ、平成25年の新登録患者は20,495人、罹患率は人口10万対16.1にまで減少しました。

しかし近年我が国では、社会的格差による健康問題が議論されております。高齢者、生活困窮者、不安定就労者、高まん延国出身者などの社会経済的弱者における結核罹患率は高く、さらなる対策の強化が求められております。また患者中心の医療提供のために結核病床の不採算の解消が重要であります。

一方、世界に目を向けると、結核は依然として大きな健康問題であり、2013年には約900万人が発病し、約150万人が死亡しています。特にアジア・アフリカなど開発途上国では罹患率が高いのみならず、多剤耐性やHIV合併結核等従来の課題に加え、小児結核への取り組み、人口高齢化による再燃再感染等も問題となっております。

これらに対し結核ゼロを目指した世界結核新戦略に呼应し、平成26年に策定された「改定版ストップ結核ジャパンアクションプラン」を確実に推進し、官民挙げて世界および日本の結核制圧に向けた取り組みを行う必要があります。日本では、2020年までに結核低まん延化(罹患率人口10万対10以下)を達成すること、国際的には日本発の新しい診断技術や抗結核薬などを積極的に活用することなどが重要であります。

さらに、結核予防会の基本方針の柱である、呼吸器疾患対策、生活習慣病対策にも継続的に取り組む必要があります。

よって、今大会において検討の結果、次の事を決議いたします。

1. 国内における結核対策としては、

①国、地方公共団体、結核予防会及び結核予防会都道府県支部においては、結核に関する正しい知識の普及啓発に努め、結核に対する意識の向上を図ること。

②国、地方公共団体、結核予防会及び結核予防会都道府県支部においては、地域特性をふまえた結核医療提供体制を確立し、実効性のある結核対策の充実に努めること。

2. 結核の国際協力としては、

①国は、「改定版ストップ結核ジャパンアクションプラン」に基づき、開発途上国への支援を推進するとともに、結核対策を含む保健分野に経験がある関係団体の主体的活動を支援すること。

②我々は、日本発の新しい診断技術や抗結核薬の有用性を積極的にアピールし、国際連携を強化することによりその普及を図り、世界の結核対策に貢献すること。

3. 呼吸器疾患対策としては、

①我々は、国民に対する呼吸器疾患の普及啓発に努め、「健康日本21(第2次)」が掲げるCOPDの認知率向上を目指すこと。

②我々は、COPDの調査・研究を支援するとともに、肺機能検査を健診に導入することや、肺がん検診の推進等、呼吸器疾患の早期発見に努めること。

4. 生活習慣病対策としては、

①国は、特定健診・特定保健指導

について、生活習慣病予防における指針のもと円滑な実施の支援に努めること。

②国、地方公共団体、結核予防会及び結核予防会都道府県支部は、「結核とタバコ」の関連性を広く世間に訴え、禁煙教育に努めること。

③我々は、特定健診・特定保健指導の推進を国民運動にしているため、関係機関と連携し、スマートライフプロジェクト等の普及啓発活動を支援すること。

5. 複十字シール運動の推進としては、我々は、結核予防の普及啓発や国際協力の貴重な財源となる複十字シール運動を盛り上げるため、関係者・団体への働きかけに努めること。

6. 我々は、東日本大震災被災地への健康支援を継続して実施すること。

以上について、一層努力いたします。

平成27年2月27日
第66回結核予防全国大会



第66回結核予防全国大会宣言

近年我が国では、社会的格差による健康問題が議論されております。結核感染の社会要因として、高齢者、ホームレス、不安定就労者など社会経済的弱者や高まん延国出身者がハイリスクグループと考えられ、医療機関への受診や治療継続確保のための対策が求められています。

我々は、国内においては、これらの社会要因が地域に密着した問題であることを認識し、医療従事者をはじめ国民に対して結核に関する正しい知識の普及啓発を積極的に

実施するとともに、地域特性をふまえた結核医療提供体制の確立を関係機関に働きかけ、実効性のある結核対策の充実に努めます。さらに、東日本大震災被災地への健康支援を継続していきます。

世界に向けては、日本が高まん延国を克服した経験を活かし、かつ、日本発の新技术を積極的に活用するよう官民挙げて働きかけます。

また、平成26年に策定された「改定版ストップ結核ジャパンアクションプラン」を確実に実施するとともに、我が国が従来から取り

組んできた開発途上国への支援の手を緩めず、結核の制圧ひいてはユニバーサル・ヘルス・カバレッジ達成へ向け総力を挙げて取り組みます。

さらに、COPD、肺がんをはじめとする呼吸器疾患対策と特定健診・特定保健指導等による生活習慣病対策の推進を図り、人々が健康で明るい生活を営めるよう努力します。

以上宣言します。

平成27年2月27日
第66回結核予防全国大会

監事就任ご挨拶

特定非営利活動法人東京都地域婦人団体連盟
会長 谷茂岡 正子

平成27年度全国結核予防婦人団体連絡協議会定期社員総会席上で、監事の大役任命を受けて、恐縮しながら、会員の皆様と共に、一層



力を入れ、頑張っ
て参りたいと思
います。結核に対
する理解は、過
去の病気と低下
されています。し
かし我が国は中
蔓延国です。ま
だまだ侮れない
病気であると認
識して、更なる
活動強化に努
めたいと思いま
す。

結核予防婦人会は、地域婦人会が母体となっており、地域の組織で、食生活、生活習慣病との合併症を起こさないように気を付け、まずは家庭から、地域から、複十字シール運動を通して、一層意識を高め、官民一体となって取り組み、正しい知識の普及に更に励んで参りたい所存です。

イラスト・カット募集

平成27年11月号(健康の輪No.115)に掲載するイラスト・カットを募集致します。

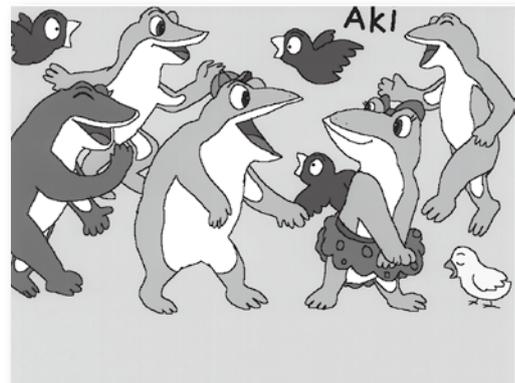
花・動物・その他、何でも結構です。

締切は、平成27年9月11日(当会必着)です。



全国結核予防婦人団体連絡協議会事務局宛

〒101-0061 東京都千代田区三崎町1-3-12 TEL:03-3292-9288



(秋田県・akipon さんからの作品)

平成27年度複十字シールの紹介 ～農作業～

安野光雅(あんの みつまさ)先生のデザインされた、今年の複十字シールは昔懐かしい農作業風景が描かれています。稲の収穫から脱穀、粳摺り、精米…。私たちの口に入るまでいくつもの工程を手作業で行っていた時代。手間がかかるからこそ、新米をいただくありがたみ、その

おいしさも格別だったことでしょう。不便な中にも心豊かな時代に思いを馳せるそんなシールが出来上がりました。

多彩な複十字シールを皆さまのアイディアで広めていただき、是非ご活用ください。

公益財団法人結核予防会 事業部普及広報課

平成27年度複十字シール

DOUBLE-BARRED CROSS SEALS 2015

JAPAN ANTI-TUBERCULOSIS ASSOCIATION



複十字シール みんなの力で結核や肺がんをなくすために
複十字章は世界共通の結核予防運動の旗印です デザイン・安野光雅

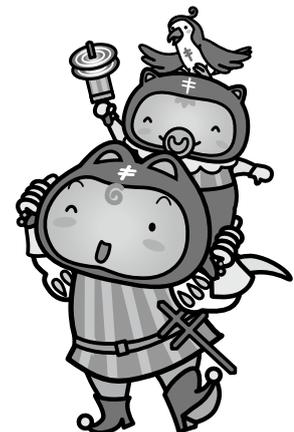
公益財団法人結核予防会

8月1日から全国一斉 複十字シール運動が始まります

つきましては、全国知事表敬訪問を今年も宜しくお願いいたします。結核予防全国大会の決議宣言についてご説明いただき、複十字シール運動へのご理解、ご協力をお願いいたします。

また、9月24日～30日結核予防週間に先立ち「全国一斉複十字シール運動キャンペーン」を実施します。普及と発展を図るため街頭募金活動等、昨年同様ご協力お願いいたします。

目標は一つ 結核のない明日をつくるために！





gsk

私たちの使命は
「生きる喜びを、もっと」

グラクソ・スミスクラインは、研究に基盤を置く世界をリードする製薬企業です。呼吸器領域、中枢神経領域、抗アレルギー領域などの医療用医薬品やワクチン、「コンタック」「シュミテクト」「ポリデント」などの消費者向け製品を通じて、人々の「生きる喜びを、もっと」に貢献してまいります。

グラクソ・スミスクライン株式会社
〒151-8566 東京都渋谷区千駄ヶ谷4-6-15 GSKビル
<http://glaxosmithkline.co.jp>

あなたの、健康のそばに。



大正製薬



しあわせは、明日も健康であること。

人々の健康意識を高めること、日々の生活をOTC医薬品でサポートすること。
それが「セルフメディケーション」をスローガンに掲げる私たち大正製薬の使命。

OTC医薬品のリーディングカンパニーとして、
より優れた医療用薬品の開発に力を入れるチャレンジャーとして、
常に「生活者の健康でより豊かな暮らし」の実現を目指しています。

大正製薬株式会社 〒170-8633 東京都豊島区高田3-24-1 インターネットホームページ <http://www.taisho.co.jp>
©製品についてのお問い合わせは【お客様119番室】電話03-3985-1800 受付時間8:30~21:00(土・日・祝日を除く)



**この国には、明治時代から
流行しつづけている病がある。**

かつて不治の病として多くの尊い命を奪ってきた病、結核。
それは昔の病気ではありません。
医学の進歩により結核が「治せる病気」になった今でも、
2013年には2087人もが命を落としています。
日本は、まだまだ結核まん延国。
結核予防には、正しい知識と早めの受診が大切です。
知ってください、結核のこと。あなたのためにも。
そばに大切なひとのためにも。

2週間以上続く咳は、結核のサインかも。
早めの受診をお願いします。

ストップ結核
ボランティア大使
JOY

結核のない
世界へ

公益財団法人結核予防会
Japan Anti-Tuberculosis Association

結核予防会 検索

※1 厚生労働省 平成25年(2013)人口動態統計より ※2 満年齢です。

ACジャパンは、この活動を支援しています



公益社団法人 ACジャパンは全国の1,000を超える民間の企業と団体が
ひとつになって、広告を通して社会にメッセージを送り続ける非営利組織です。